



## 事例紹介 2（多頭飼育崩壊ケース）

対人援助学マガジン 32 号の「そうだ猫に聞いてみよう No.9」にて、多頭飼育崩壊ケースへの介入事例を 1 事例紹介しました。その時も書きましたが、多頭飼育崩壊に至ってしまった経緯や要因はケースによって様々です。そこで、今回は人もねこも一緒に支援プロジェクトで支援した別ケースの事例紹介をしたいと思います。くどいようですが、あくまで 1 ケースの事例紹介であり、すべての多頭飼育問題に通用する解決策を記述しているものではありません。多頭飼育問題の「問題」も「介入方法」も多様です。それでも、取り組みの積み重ねが何かのヒントになればいいと思い紹介することにします。

### 人もねこも一緒に支援プロジェクトに係わるに至った経緯

ある動物病院から人もねこも一緒に支援プロジェクト（以下ねこプロ）に電話がかかってきました。「病院に猫を多頭飼育している飼い主さんから SOS の相談電話がかかってきています。飼い主さんは保健所からうちの動物病院を紹介されたそうなのですが、経済的にもかなり厳しいようで、そちらの NPO を紹介してもいいでしょうか？」という内容でした。もちろん OK です、と回答しました。

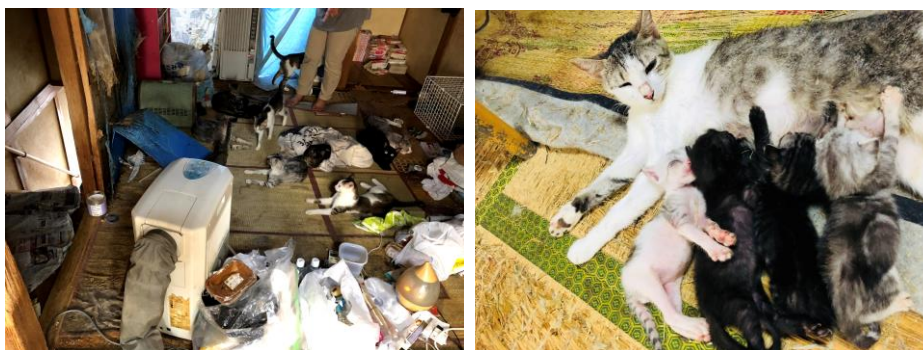
すぐに飼い主さんから直接電話がありました。内容を要約すると「隣人から臭いの苦情をうけ、動物愛護団体や保健所に相談をした。保健所からは、不妊手術や里親探しをした方がいいと指導を受け、安価で不妊手術を実施してくれる動物病院を紹介されたが、頭数が多く、金銭的に実施が困難で困っている。」という内容でした。

ひとまず家庭訪問をすることにしました。



## 家庭訪問。お家と猫の状況。

約20年前に友人から猫を2匹もらいうけ、飼育しはじめたが不妊手術をしなかったため、室内で繁殖し増えていったそうです。これまでに15匹ほど友人知人に譲渡しましたが、繁殖スピードには追いつかず初回訪問時は生後1週間程度の子猫を含めると28匹が確認されました。壁はオスのスプレー行為でおしっこがこびりつき、畳は猫のおしっこがしみ込み、異臭の元となっていました。1人暮らしでは一応ありますが下の階には母親と弟が住んでいました。母親は脳梗塞で倒れ入院中、弟は10年近く引きこもり状態で部屋はゴミ屋敷化しかけているとのことでした。また借金もあり、家賃は5ヵ月分ほど滞納中している状態とのことでした。(個人情報保護のため、一部改変しています。)



## 問題をうまく伝えられないという問題

多頭飼育崩壊ケースの飼い主さんが抱える問題として、**問題をうまく伝えられないという問題**は多くの飼い主さんが抱えていると感じます。あわせて、関係機関が飼い主さんの**主訴の奥にある問題**を聞き取ろうとしてくれないこと、があると感じます。

猫の多頭飼育の問題が起きる背景には、経済的な問題、心の問題、人間関係の問題など複数の人の問題が必ずあります。ですが、飼い主さん自身がどこに相談しても目下の不安「猫をたくさん飼っていて・・・」が最初にでてきてしまうため、どこの福祉機関でも「猫の相談はうちじゃないよ」と言われてしまいます。勇気を振り絞って相談の電話をしても、たらい回しにされてしまうと飼い主さんの心も折れてしまいます。それによって多頭飼育がより深刻化し、崩壊状態に至り、近隣からの苦情や通報に至るまで放置されてしまう傾向があるように感じます。

今回のケースで言えば、

Q. 臭いの苦情はどんな時に言われたんですか？→A. 先日母が脳梗塞で倒れ、アパートの前で大騒ぎしていた時に。母はまだ意識不明で入院している。

Q. 不妊去勢手術は自費では難しいですか？→A. アルバイト生活で複数の会社への借金返済があり、家賃も5ヵ月ほど滞納している。

Q. 猫のことで頼れるご家族はいますか？→A. 母と同居している弟は10年ほど引きこ

もり生活をしている。母が働けなくなったら弟も生活できなくなる。頼れる状況ではない。

などなど、しっかり飼い主さんのお話を聞けば、猫の多頭飼育問題だけでなく経済的な問題や、親の介護の問題、兄弟の問題など支援が必要な問題がたくさん明らかになります。

### ●でもやっぱりつなげられない問題

ねこプロでは、支援対象の方に対し、単体での介入は基本的には行わず、**多機関と連携**して支援を実施することを大切にしています。多頭飼育崩壊は、**猫がたくさんいる状況が問題の本質**なのではなく、**その状況をつくりあげてしまった様々な要因が問題**だからです。今回のケースでは公的機関とのつながりを飼い主さんがもっていないケースでしたので、ねこプロから再度、保健所と社会福祉協議会に連携の要請をしました。しかし、双方に見事に断られる、という大きな壁にぶつかりました。それぞれの回答をまとめると下記の通りです。

**保健所：**相談した当事者に対し「全頭に不妊手術を実施し、里親探す、殺処分を了解したうえで保健所に持ち込むなら、引き取り料を持参のうえ自分で全頭持ってくるように。経済的な相談は社会福祉協議会にするように。」という指導をした。それ以上保健所が何かする理由はない。

**社会福祉協議会：**沢山いる猫をどうするべきなのか社協として判断できない。不妊去勢手術が必要なのか判断できない。猫のことは保健所に相談してほしい。

このように、双方がケースをかたくなに譲り合ってしまうのです。当事者だけでは実施困難と分かりながら「不妊去勢手術と里親さがしをするように」という保健所のテンプレート回答は、相談の拒否であり指導とはいえません。社会福祉協議会で言えば、近隣から悪臭で苦情もでており、生活環境に問題があることがあきらかだと思いますが、「猫」が相談者の主訴であることで、保健所に相談するように、の一点張りでした。

もやもやしたのでC市で活動する複数の動物愛護団体さんに話を伺ったところ、多頭飼育崩壊は同市でもこれまで何度も起きているものの、ボランティアさんたちが全頭の保護や不妊去勢手術をにない、何年もかけて対応されていきました。中には社協から保護を依頼され、多頭飼育崩壊ケースの猫を引き取ったものの、数年後にまた多頭飼育崩壊ケースとして再発、また引き取って、その数年後である現在、また多頭飼育崩壊ケースとして再発している飼い主さんもいるようでした。動物愛護団体は公的機関の都合の良い下請け業者ではありません。ボランティアさんたちの善意に丸投げの行政態度には腹立たしく思いました。とはいえ、繁殖制限を早急に実施する必要があるため、怒っている場合ではありません。一旦、他機関との連携は断念しました。

## ねこと人の問題

---

- ペット不可の賃貸住宅に住んでおり、すでに近隣住民から苦情が出ている。
- 避妊去勢手術をしていないため、現在も増え続けている。
- 近親交配が進み、猫の状態が良くない。ネグレクト（動物愛護法）寸前である。
- アルバイト生活と借金返済で経済的に厳しい状態。
- 母親の介護問題
- 弟の自立問題

## 人ねこケアの介入方針

---

- 全頭に避妊去勢手術を実施し、長期的目線で苦情と飼育ゼロに近づける。
  - 避妊去勢手術をすることで、猫の尿の中でも特に刺激臭のマーキングが無くなる。また、近親交配により増えているため、体が弱く、平均寿命が3～4歳程度しかないため、5年で1ケタになる可能性が高い。
- 臭いの軽減をはかる。
  - おしっこがしみこんだ畳を交換する。
  - 猫を不妊去勢手術に連れていき無人になったところでバルサンを炊く。
- 福祉機関とのつながりをつくる
  - 猫への不妊去勢手術が全頭に完了し、ひと段落ついたら福祉機関と一緒に相談にいき、生活支援のサポートをしてくれる場所とのつながりをつくる。

今回も頭数が多いので、公益財団法人どうぶつ基金のさくらねこ無料不妊手術チケットを申請することにしました。

## まず3頭に不妊手術を実施

---

最初の家庭訪問の時点で、交尾をしている猫がいました。猫は人のように交尾排卵動物なので、交尾をした刺激で排卵し90%以上の確率で妊娠します。そして妊娠期間は62～67日なので、交尾を目撃したら約2ヵ月後には子猫を出産することになります。また、目視でお腹が大きく見える状態になった猫はすでに妊娠後期と考えられます。妊娠していても堕胎処置を了承するのであれば不妊手術はできますが、出産直前になればなるほど、手術リスクは上がります。どうぶつ基金への申請書類を作り、申請が降りて、一斉手術を待っている間に出産してしまう可能性や手術のタイミングが妊娠後期になってしまう可能性を考え、飼い主さんと相談し、3匹だけ飼い主さん負担で先に不妊手術を実施することにしました。



## 一斉不妊手術に向けての準備

どうぶつ基金への申請が受理され、「北摂 TNR サポートのらねこさんの手術室」という池田市内の動物病院で、一斉避妊去勢手術を約 1 カ月後に実施してもらえることが決まりました。1 日でのこり全頭の避妊去勢手術を実施します。当日は大変ですが、何日にも分けて動物病院に運んでいたら日数がかかりすぎます。また、少しずつ時間を空けて実施すると、全頭の避妊去勢手術をすると決めたはずの飼い主さんの心が揺らいでしまう可能性もあります。そうしてゆっくり進めているうちに、また新たな出産が始まり・・・という後退の危険性も出てきます。そこで、今回も残りの猫たちは一度に全頭の避妊去勢手術を実施することにしました。手術まで 1 ヶ月と決まり、なるべく手術の負担を軽くするために、痩せている猫たちを太らせ体力をつけてもらいます。Amazon 欲しいものリストを作成し、ねこプロの Facebook や HP で支援を呼びかけました。同時に、Facebook で畳の寄付を呼びかけたところ、奈良県で活動する Life for cats NARA さんのご紹介で、畳屋さんから中古の畳のご寄付もいただきました。



## 一斉避妊去勢手術と畳交換

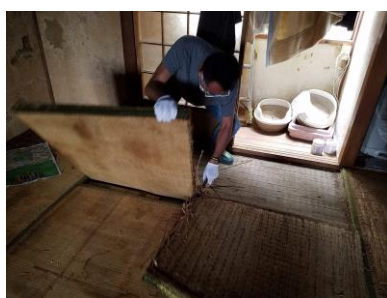
どうぶつ基金から発行された無料不妊手術チケットを利用し、北摂 TNR サポートのらねこさんの手術室（大阪府池田市）で手術を実施しました。妊娠が疑われるメス猫とマーキングが激しいオス猫 2 匹は一斉手術日より前に、別途不妊術を実施していましたが、畳交換とバルサンのために、飼い主さん宅を猫ゼロにしたかったので、病院のご厚意い甘え、手術済みの 3 頭も日中預かっていただきました。当日のタイムスケジュールは下記の通りです。

| 時間   | 実施内容                                                        |
|------|-------------------------------------------------------------|
| 11時  | 動物病院スタッフと猫プロスタッフで訪問し、手術済みの猫 3 頭と手術がまだ実施できない子猫も含め全頭を動物病院に搬入。 |
| 12時  | 臭いの原因となっている畳を処分するため畳を切断。                                    |
| 14時  | 新しい畳の搬入が完了。                                                 |
| 14時半 | バルサン。                                                       |
| 15時半 | 畳をクリーンセンターに捨てに行く。                                           |
| 18時  | 室内の換気と掃除。                                                   |
| 20時  | 猫をお家に戻す。支援フードを届ける。                                          |

かかった実費分：バルサン 1 個代、メスのコンベニア 2,000 円× 7 匹、と畳処分費 1,500 円、実費手術分メス 8000 円、オス 4000 円× 2 匹、の実施は飼い主さんが分割で支払いしました。

### ●畳交換の落とし穴

一斉手術の数日前に、中古畳のご寄付をいただき、畳を運搬するための軽トラックを借りる段取りをし、地域のクリーンセンターに古い畳の回収の予約の電話をいれたのですが…私「畳を 10 枚捨てたいので、予約をお願いします」、クリーンセンターの人「はい。大丈夫ですよ、半分に切って持ってきてください。」、私「えっ」…。皆さんはご存知だったでしょうか？畳はそのままではゴミ処理機械に入らないので、半分に裁断してから持ち込まないといけないそうです。いくつかの自治体のクリーンセンターに電話をしてみました、どこも同じ回答でした。中古畳も寄付でいただいて、軽トラも借りています。今更、「畳交換やめましょう…」とはいきません。腹をくくって、のこぎりナイフを借りて、当日の参加スタッフを追加で呼びかけて、切りました。いや、切ってくれました、ねこプロのスタッフたちが。幸い、おしっこがしみ込んで畳が腐っていたらしく、「案外切りやすかった」そうです。やっとすべての畳を切り終え、搬出し、やっとひと段落かとおもいきや…。畳は同じ部屋に入っているものでも数センチ微妙に大きさがそれぞれ違うそうです。それを知らずにざっくりとしたサイズで沢山の中古畳をいただいていたので、どの畳をどう組み合わせたら部屋に収まるのか、という難題にぶち当たりました。ここでは、数学科出身（この日初めて知りました）のねこプロスタッフが活躍してくれました。一つ一つ採寸して計算し、見事にはめてくれました。改めて、多様な背景や専門性を持つスタッフが集まることの大切さ、心強さを実感しました。今回の畳騒動に巻き込まれたねこプロスタッフは、プロジェクト代表である私の、猫に直接関係する部分以外の計画の雑さを実感してしまったのではないかと思います。少し反省しています。



### ●猫たちのリターン、支援フードの差し入れ

一斉手術当日の夜 20 時、手術をおえた猫さんたちをお家に戻し、支援フードを差し入れしました。手術をして終わりではなく、術後の猫たちのケアも大切です。そして術後の猫たちのケアをきちんとすることは、初めての一斉術後で不安いっぱい飼い主さんの精神的なケアにも繋がると考えています。



## 地域包括支援センターへ

猫たちの一斉手術が終わり、数日後。ひと段落したので、次の課題は「福祉機関とのつながりをつくること」です。そのためのとっかかりとして、入院中のお母さんのことを地域包括支援センターに相談しにいくことにしました。すると、相談をきいてくれたワーカーさんが、「お母さんの介護度申請の手続きの手配だけでなく、一緒に猫や弟さんの今後も含めて考える必要がありますね」と理解を示してくれました。その結果、地域包括支援センターが呼びかけ人となって、後日に「人もねこも一緒に支援プロジェクト」と「地域包括支援センター」と「社会福祉協議会」で関係者会議を開くことができました。猫も含めて、飼い主さん家族をどう支援していくか話し合いをすることができました。

## スケジュール

今回紹介した内容がどのくらいのペース配分で進んだのか、下記にスケジュールをまとめた。

| 日程    | 実施内容                                                                                              |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月3日  | 電話相談<br>飼い主さんからNPOに相談の電話があった。                                                                     |
| 7月4日  | 初回家庭訪問<br>家庭訪問を実施                                                                                 |
| 7月5日  | メス1匹不妊手術<br>妊娠が疑われるメス1頭を不妊手術                                                                      |
| 7月10日 | オス2匹去勢手術<br>スプレー行為が激しいオス2匹を去勢手術                                                                   |
| 7月25日 | 家庭訪問（畳寸法測定・申請書作成）<br>どうぶつ基金の無料不妊手術支援を受けるために申請書を作成し、内容を説明をしたうえでサインと同意をもらう。臭いがキツイ畳の寄付を募るため、寸法を測定する。 |
| 7月26日 | どうぶつ基金無料不妊手術支援申請                                                                                  |
| 8月11日 | Amazon欲しいものリスト作成<br>キャットフード、ビニールシート、洗濯ネットの支援を呼びかける                                                |
|       | 家庭訪問（物資支援・猫を太らせる）<br>複数回支援フードを届ける。猫の体調チェック                                                        |
| 9月13日 | 一斉避妊去勢手術実施・畳交換実施<br>北摂TNRサポートのらねこさんの手術室で13頭実施。手術負不可の猫も動物病院に搬入させてもらい、畳を捨て、中古の寄付畳を入れ、バルサン実施。        |
| 9月26日 | 母猫とオス猫2匹不妊手術<br>一斉手術時に出産直後のため手術を見送った母猫と、放浪していたオスを追加で不妊手術。                                         |
| 9月26日 | 地域包括支援センターに同伴して相談に行く                                                                              |
| 9月30日 | 子猫2匹不妊手術<br>26日時点でも体調が悪く手術ができなかった子猫2匹を追加手術。                                                       |
| 10月5日 | 関係者会議<br>地域包括支援センターが呼びかけ人となり、社会福祉協議会、NPOが参加。                                                      |

## 手術、その後

全頭への手術を終えて約半月経ったところで、「猫が走りまわるから騒音で隣の人が怒りに来るんじゃないか心配」という電話が、先月全頭の不妊手術が終わった多頭飼育 C 現場の飼い主さんから連日かかってきました。「不安でいっぱい、友人など色んな人に電話をかけてしまう」とのことでした。そこで、飼い主さんと一緒にアパートのお隣さんに、猫の臭いや騒音の謝罪と今現在の取り組みの説明にいきました。お隣さんは一定の理解をしめてくださり、すこし安心することができたようです。ただし、不妊手術後、猫たちの健康状態が良くなったとはいえ、そこで走りまわることが過度に増えたとは考えにくいです。なぜか飼い主さんの不安が高くなってる気がしました。昨年一斉手術をした多頭飼育 77 頭の A 市の現場の時も、一斉不妊手術が終わってしばらくしてから飼い主さんの心が不安定になる時期がありました。全頭に不妊手術をするという 1 つの目標に向かって走っているうちは、その他の不安は背景になり見えにくくなっているのでしょう。ところが、いざ目の前の目標が達成されてしまうと、一瞬は安心するものの、背景になっていた様々な不安が次々と目に付くようになり、また不安な状態に戻ってしまうのかもしれません。子猫が生まれることがない環境の中で、じわじわと猫の死と向き合っていかなければいけない状況にもなります。要因は色々ありそうですが、多頭飼育崩壊ケースへの支援を考えるうえで、支援の進み具合と連動して、こういった飼い主さんの心の動き方の傾向があること心にとめておく必要があると感じました。



## まとめ

全頭への不妊手術が完了し、福祉機関とのつながりもつくることができました。とはいえ、猫と飼い主さんたちの暮らしはこれからも続きます。今後も、人もねこも一緒に支援プロジェクトとして、定期的に訪問し、これからの経過も見届けていきたいと思います。

## おわり



小池英梨子

NPO 法人 FLC 安心とつながりのコミュニティづくりネットワーク

「人もねこも一緒に支援プロジェクト」 プロジェクト代表

仕事：猫専門のお手伝い屋さん「ねこから目線。」として開業。